地歴 問

地理歴史等

平成26年度　(前期日程)

注意事項

1 「解答はじめ」というまで，この問題冊子を開いてはいけません。

2 問題は1冊(本文31ページ，下書用紙2枚)で，解答用紙は1枚です。下書用紙は問題冊子の中に挟み込んであるので，引き抜いて使っても構いません。なお，問題冊子と下書用紙は持ち帰って構いません。

3 すべての解答用紙に受験番号を書きなさい。なお，受験番号は，次の要領で明確に記入すること。

(例)　受験番号50001番の場合 ⟶ | 5 | 0 | 0 | 0 | 1 |

4 1) 世界史，2) 日本史，3) 地理，4) 倫理，政治・経済，5) ビジネス基礎，以上5科目のうちから1科目を選んで答えなさい。さらに選択科目の番号を受験番号の隣の欄に書きなさい。

(例)　2) 日本史を選んだ場合 ⟶ | | | | | | | 2 |

5 解答は，解答用紙の所定の位置に横書きで書きなさい。他のところに書いても無効になることがあります。

また，字数などの指示がある場合は，その指示に従って書きなさい。なお，字数制限がある場合，洋数字及びアルファベットに限り，1マスに2文字入れることができます。それ以外の句読点や問題番号には1マスを使用すること。ただし，例えば「問1」ならば「1」とのみ書いても構いません。

地　　理

Ⅰ　スロベニアに関する次の文を読んで，以下の問いに答えなさい。

スロベニアは，人口200万人あまりのヨーロッパの小国であるものの，多様で興味深い地理と歴史をもっている。

第一次大戦以前まで6世紀以上にわたり，現在は北に国境を接する【　①　】が支配し，モーツァルトなど多くの音楽家が活躍した首都【　②　】と南の【　③　】海に面する港湾都市【　④　】とを結ぶ南部鉄道が通過した。

スロベニアの【　③　】海沿岸の都市には，かつて西に国境を接する【　⑤　】人が多く住み，第一次大戦後，【　①　】の敗戦に伴い，この国の西部は【　⑤　】に編入された。東部の，ドイツ語を話す人々が多く住んだ地区は，新しく成立した【　⑥　】領となった。第二次大戦で枢軸国の敗戦後には人為的に国境線がひかれ，現スロベニア西部も【　⑥　】に編入された。【　④　】は国際管理下で分割され，最終的にその中心市街地のみが第一次大戦以来この都市を支配する【　⑤　】にとどまることとなった。重要な港湾都市を獲得できなかった【　⑥　】は，国家計画で，隣接するコペルに新しい港湾を築いた。

戦前からの産業集積や西欧への近接性のため，戦後は【　⑥　】で最も経済が発展した地域となり，1991年，【　⑥　】軍を自力でやぶって，歴史上初めて独立を果たした。【　⑥　】の旧共和国の中で最も早くEUへの加盟を2004年に果たし，さらに通貨としてユーロを最も早く，2007年に公式導入している。[1]その経済力や生活水準から，移民や外国人労働者に魅力があり，11％(2011年)の居住者が，外国生まれとなっている。[2]

自然地理学からみると，石灰岩地形を表す【　⑦　】地形という術語は，スロベニアの地名からとられたもので，スロベニアなどをフィールドとして，石灰岩地形の研究が【　②　】大学で学位を得た地理学者によって進んだため，石灰岩地形の特徴を表す名称には，ドイツ語のほか，スロベニア語や，南で国境を接する【　⑧　】の国語からとられたものが多い。[3]また，欧州大陸内部に溜まった冷気が，ユリア・ア

ルプス山脈の峠を通過し，重力の作用で海に向け寒冷風として【 ③ 】海に高速で吹きおりる【 ⑨ 】も，スロベニアでよく知られた自然地理的現象である。

このような変化に富んだ地形から，スロベニアでは自然を対象としたエコツーリズムが盛んである。ポストイナ【 ⑩ 】は，巨大な石灰岩の洞内に列車すら走る名所となっている。ユリア・アルプス山脈を区域とするトリグラフ国立公園には，【 ① 】領時代から登山道と山小屋の密なネットワークが作られ，国の最高峰であり国旗・国章に描かれた秀峰トリグラフ(標高 2,864 m)には，岩稜となっている頂上付近の登山道に，ヴィア・フェラータ*がしっかり整備されている。4

＊…岩場において，足がかりのほかに登山道に並行して鉄のワイヤを設置し，登山者は自分の身体を縛るハーネスにつけたカラビナ(クリップ)をこのワイヤにかけて確保しつつ転落を避け安全に進めるようにした登山道の整備技術。最近アジアにも広まっているが，日本国内にはまだ一ヶ所も存在しない。

問 1　①から⑩までの空欄に適切な国名，地名または地理用語を入れて，文章を完成させなさい。解答は，解答欄の 1 から 3 行目に，空欄番号とともに記すこと。同じ番号には同じ語が入るから，一度だけ記せば良い。

問 2　下線部 1 でいう「旧共和国」ではなく，公式の協定なしにユーロを通貨に用いている国がある。この国を日本は承認しているが，世界のいくつもの国が未だ承認していない。

(1)　この国名を解答欄の 4 行目に書きなさい。

(2)　ヨーロッパではスペイン，アジアでは中国が，ある共通の理由を一因としてこの国を承認していない。(1)で答えた国の特徴を述べ，それをふまえてこの承認しない理由を記しなさい。(50 字以内)

問 3　下線部 2 に関し，図Ⅰ—1 のグラフは，スロベニアへの外国人全流入者(観光など目的の短期訪問は含まない)のなかでの，人口流入元上位 10 ヶ国の比率(%)を示している。破線は 2000 年から 2009 年までの平均，灰色の実線は 2010 年を示す。ここから，スロベニアへの流入元となった上位 10 ヶ国の構成がもつ特徴と，時間に伴う変化の特徴を，それぞれ述べなさい。(50 字以内)

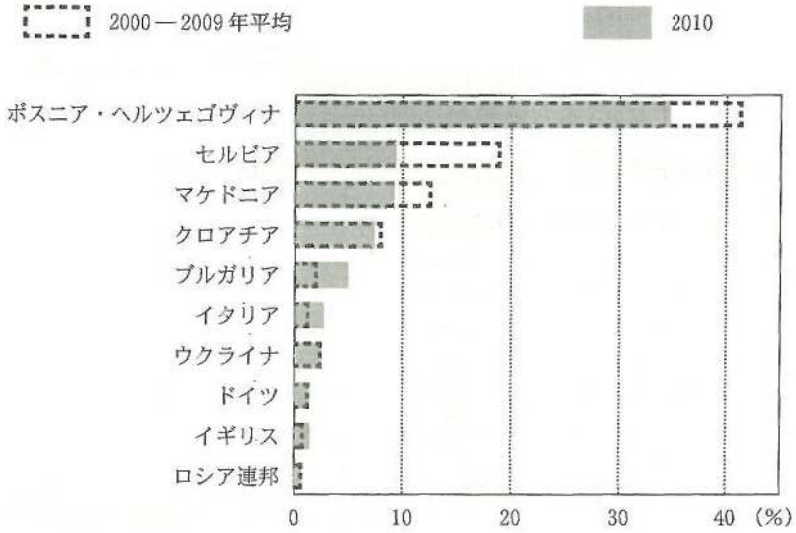
問 4　下線部 3 に関し，図Ⅰ—2 は，石灰岩地形の輪廻における特徴的な段階を示している。矢印で示した A，B，C，D それぞれの地形名称を記し，あわせて輪廻の順位を示しなさい。解答は，地形名称については A，B，C，D の記号とともに解答欄の 9 行目に，順番は，図の番号を→で順に結んで，解答欄の 10 行目に記しなさい。

問 5　下線部 4 に関し，トリグラフ国立公園を中心とするスロベニアの山岳地帯への訪問客の特徴について，次の 3 点について答えなさい。

(1)　スロベニアのユリア・アルプス山脈を，スイスなどのヨーロッパアルプスの核心部，ならびに同じように岩稜帯の登山道がある日本の穂高岳，槍ヶ岳などと比較したとき，この国立公園への登山客には，どのような特徴があると考えられるか，理由とともに述べなさい。(50 字以内)

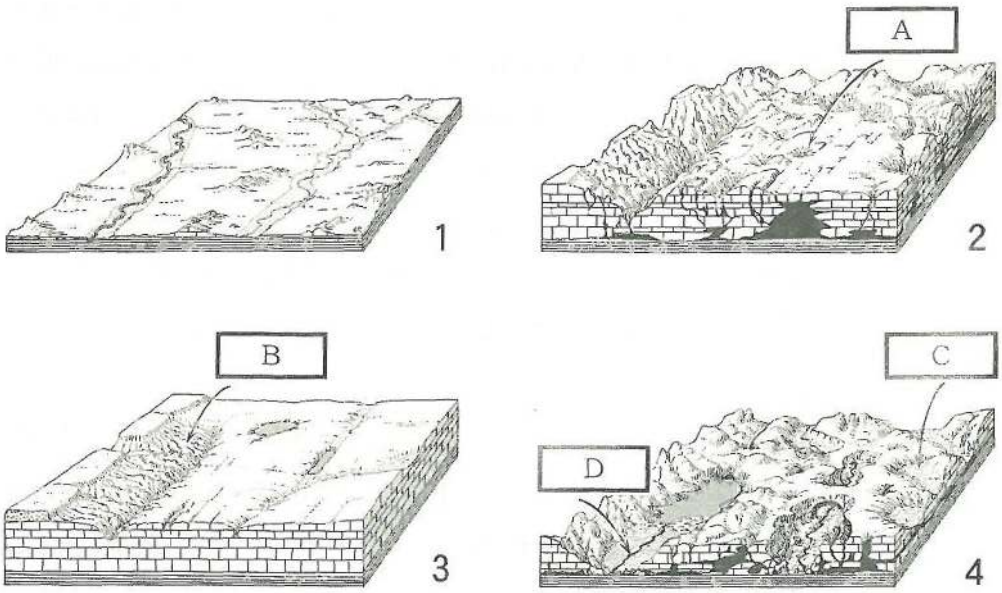
(2)　図Ⅰ—3 のグラフは，スロベニアの山岳地帯への宿泊を伴う訪問者数を国別に示したものである(2012 年)。このグラフの構成国と，図Ⅰ—1 のグラフに現れた諸国の構成は大きく異なる。その理由を述べなさい。(50 字以内)

(3)　ヨーロッパは一般に日本人にとって馴染み深い観光目的地であるにもかかわらず，このグラフにおいて日本の順位はきわめて低い。日本人の観光目的地選択における行動の特徴を述べ，このように低いのはなぜか説明しなさい。(50 字以内)

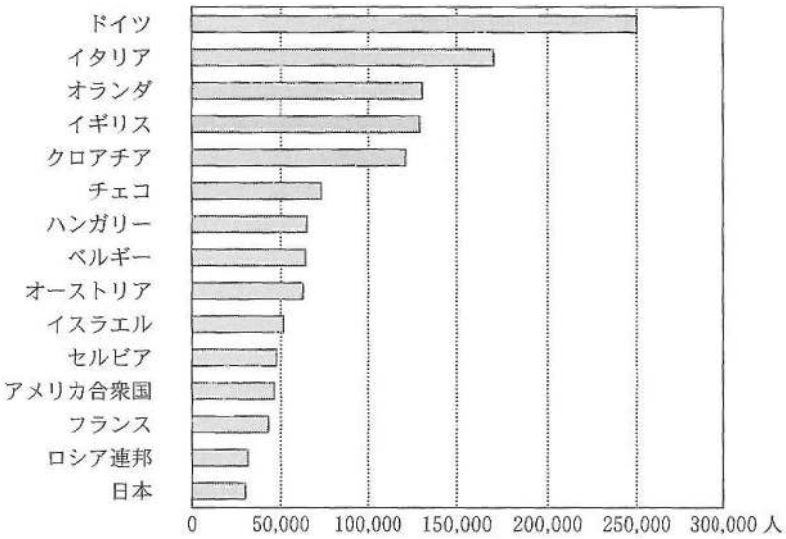


図Ⅰ－1　外国からスロベニアへの人口全流入者に占める上位10ヶ国の比率

出所：*International Migration Outlook* 2012, OECD



図Ⅰ－2　石灰岩地形の輪廻



図Ⅰ—3　スロベニアの山岳地帯への，宿泊を伴う訪問客数

出所：*Slovenian Tourism in Numbers*, Slovenian Tourist Board.

Ⅱ　次の文を読んで，アラブ首長国連邦に関する以下の問いに答えなさい。

アラブ首長国連邦は，【　①　】，ドバイ，シャルジ(シャールジャ)，アジュマン，ウム・アル・カイワイン，ラス・アル・ハイマ，フジャイラの7首長国からなる連邦国家で，ペルシア湾岸の，【　②　】海峡の近くに位置する。ペルシア湾の南西岸には湾奥から順に，イラク，クウェート，サウジアラビア，バーレーン，【　③　】，アラブ首長国連邦と産油国が並び，【　②　】海峡東側のオマーンも石油を産する。

原油，天然ガスといった地下資源は，これらの国々に多大の外貨収入をもたらしてきたが，アラブ首長国連邦では，古くからの中継貿易，真珠生産，金・宝石類の加工に加えて，金融，不動産開発，観光業などへの経済多角化によって地下資源依存からの脱却が図られてきた。

アラブ首長国連邦の経済多角化の一つとして，国際空港の運営とそこを拠点とする航空会社の経営という航空運輸業の発展がある。特にドバイは，ドバイ国際空港が国際旅客取扱数(国内線を除く)で世界の上位5位以内に入り，そこを拠点とするエミレーツ航空は国際線定期輸送実績が世界1位の航空会社になった。さらに最近はアラブ首長国連邦の【　①　】首長国の空港を拠点とするエティハド航空やアラブ首長国連邦の隣国である【　③　】の航空会社も急成長している。

問1　空欄①，②，③を埋める地名，国名を空欄番号とともに解答用紙の1行目に書きなさい。同じ番号には同一の語が入るから，一度だけ記せばよい。

問2　表Ⅱ—1はアラブ首長国連邦の都市居住者人口の男女別・年齢階層別構成を示したものである。このような人口構成の特徴を説明し，なぜそのような特徴を持つに至ったのか説明しなさい。(100字以内)

問 3　表Ⅱ－2は，2010年から2012年のアラブ首長国連邦の主な貿易相手国と貿易品目を示したものである。アラブ首長国連邦の貿易は中継貿易(中国からの輸入品をアフリカや中東諸国に再輸出するのが代表的)，工業製品輸入と資源輸出という特徴をもち，国内の経済活動が貿易品目にも反映している。また貿易相手国によって貿易品目の傾向が異なっている。①日本，②インド，③アメリカとの貿易について，アラブ首長国連邦の国内経済活動との関連でどのような特徴の違いが生じているのかを説明しなさい。なお，この3国を指すときは，①，②のように番号だけで書いてよい。(125字以内)

問 4　表Ⅱ－3は世界の国際旅客取扱数上位10位までの空港とそれらの空港を拠点とする航空会社の旅客定期輸送実績(国際線)，および空港が所在する国の面積と国民総所得(GNI)を示したものである。国際旅客を多く扱う空港は，そこを拠点として路線を展開している航空会社の輸送実績についてみても旅客キロ数が大きく，空港利用者数と航空会社の輸送実績との関連が存在する。しかし空港旅客取り扱い数や航空会社の輸送実績は，空港が位置する国の面積や国民総所得(GNI)とは必ずしも関連していない。それはどのような理由かを説明しなさい。利用者数や輸送実績は国際線についてである(国内線は含まない)ことに留意すること。(150字以内)

表Ⅱ－1　アラブ首長国連邦　都市居住者人口の男女別，年齢階層別内訳　2005年センサスによる　単位：千人

年齢階層	男	女
0—14	224.7	301.4
15—29	723.7	357.3
30—39	747.0	229.0
40—49	366.3	111.3
50—59	132.8	39.6
60—69	22.1	10.5
70以上	8.2	6.9
計	2,328.9	1,055.9

表Ⅱ—2　アラブ首長国連邦の主要貿易相手国

輸出

	輸出全体に占める割合	主要輸出品目
日　本	16％前後で1位	対日輸出のほぼ全てが原油，天然ガス
インド	11～14％を占め，2位	真珠，宝石類，金
アメリカ	5％未満	鉄鋼，アルミニウム，石油製品
イラン	5～11％を占め，3位	真珠，宝石類，金
タ　イ	5～6％	原油，くず鉄
韓　国	5～6％	原油，石油製品

輸入

	輸入全体に占める割合	主要輸入品目
日　本	4％程度	自動車，電子機器，機械
インド	12～20％で1位	綿花，宝石類
アメリカ	6～11％	航空機，航空機部品，自動車
中　国	2010年に7.5％， 2011,12年に14％	繊維製品，服
ドイツ	5％前後	機械，電子機器

表Ⅱ—3

世界の国際旅客取扱数上位空港(1)　　航空会社別国際線定期輸送実績　空港が位置する国・地域の情報

2011年(2)

都　市	空　港	2011年乗降客数(千人)	順位	航空会社	輸送旅客キロ(100万人km)	順位	国名・地域名	国の面積(万平方キロ)	GNI 2010年(億ドル)
ロンドン	ヒースロー	64,688	1	英国航空	114,158	5	イギリス	24.3	23,772
パ　リ	シャルル・ドゴール	55,675	2	エールフランス	123,106	4	フランス	55.2	27,498
ホンコン(香港)	ホンコン	52,753	3	キャセイ・パシフィック航空	91,990	7	ホンコン(3)	0.1	2,317
ドバイ	ドバイ	50,192	4	エミレーツ航空	153,264	1	アラブ首長国連邦	8.4	2,909
アムステルダム	スキポール	49,681	5	KLMオランダ航空	82,047	10	オランダ	3.7	8,148
フランクフルト	フランクフルト	49,477	6	ルフトハンザ	135,479	2	ドイツ	35.7	35,220
シンガポール	チャンギ	45,429	7	シンガポール航空	86,400	8	シンガポール	0.1	2,034
バンコク	スワンナプーム	35,009	8	タイ航空	51,930	17	タ　イ	51.3	2,866
ソウル	インチョン(仁川)	34,538	9	大韓航空	61,201	15	韓　国	10.0	9,723

(1) 国内旅客を含めた場合の上位5位までの空港は，アトランタ，北京，ロンドン・ヒースロー，シカゴ，東京・羽田。

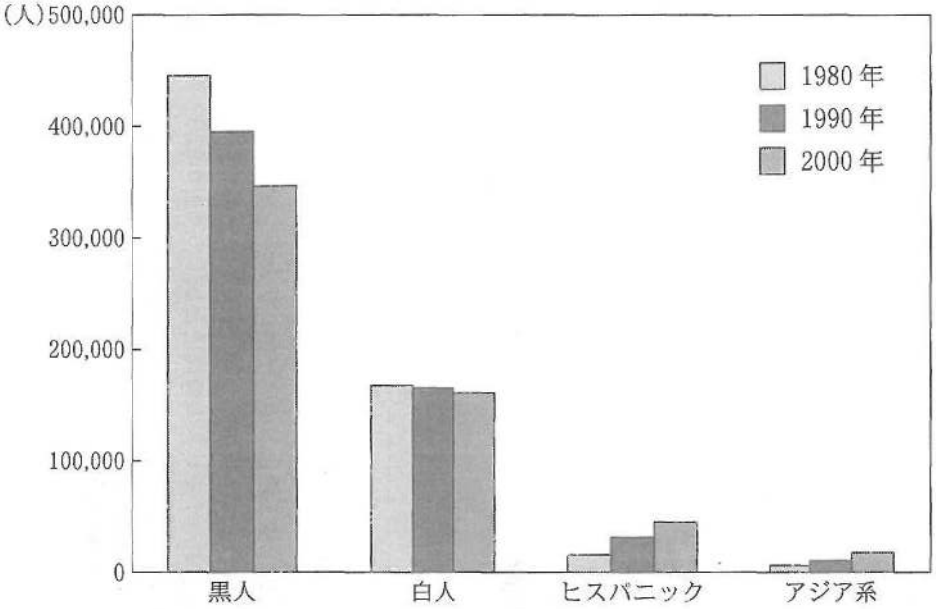
(2) 国内線旅客を含めた場合の上位5位は，デルタ航空，アメリカン航空，ユナイテッド航空，エミレーツ航空，ルフトハンザ。

(3) ホンコンは中国に属するが，イギリスの植民地としての歴史があり，現在も特別行政区として独立性を有しているので，ホンコンの面積とGNIを示した。

出所：航空統計要覧2012年版

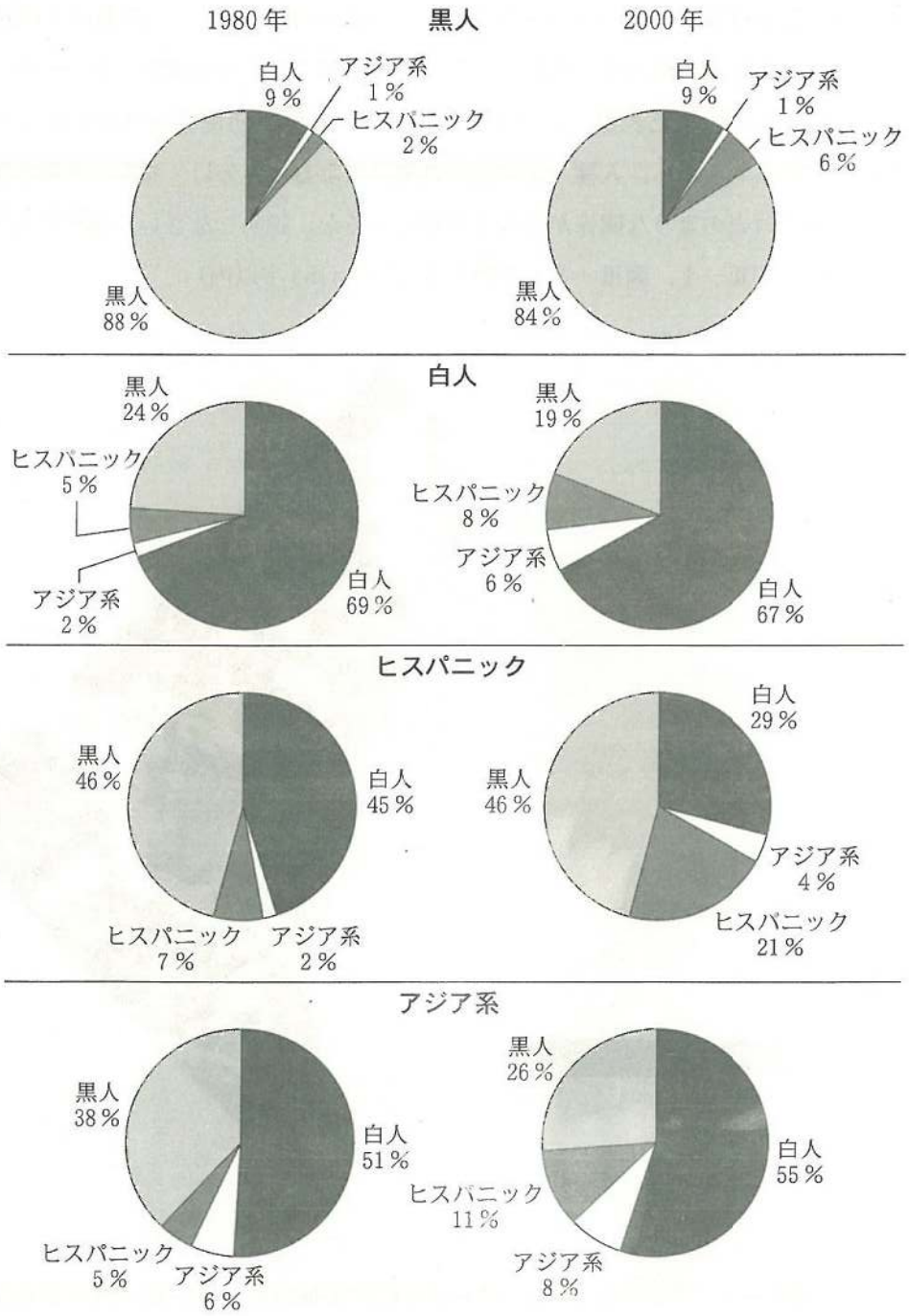
Ⅲ　アメリカ合衆国の首都ワシントンD.C.における人口構成に関する以下の問いに答えなさい。

問 1　図Ⅲ—1は，ワシントンD.C.全体における白人，黒人，ヒスパニック，アジア系の4つの人種・エスニック集団毎の1980年から2000年の間の人口増減を示している。図Ⅲ—2は，各人種・エスニック集団に属する個人が同一居住区内において，どの人種・エスニック集団とどの程度一緒に住んでいるかを示したものである。図Ⅲ—1，図Ⅲ—2から，ワシントンD.C.における地理的な住み分けについて，人種・エスニック集団毎にどのような特徴がみられるか。また1980年から2000年にかけて，この特徴にどのような変化が起きたか。それぞれ説明しなさい。(125字以内)



図Ⅲ—1　ワシントンD.C.における人種・エスニック集団毎の人口変化(1980～2000年)

出所：The Urban Institute

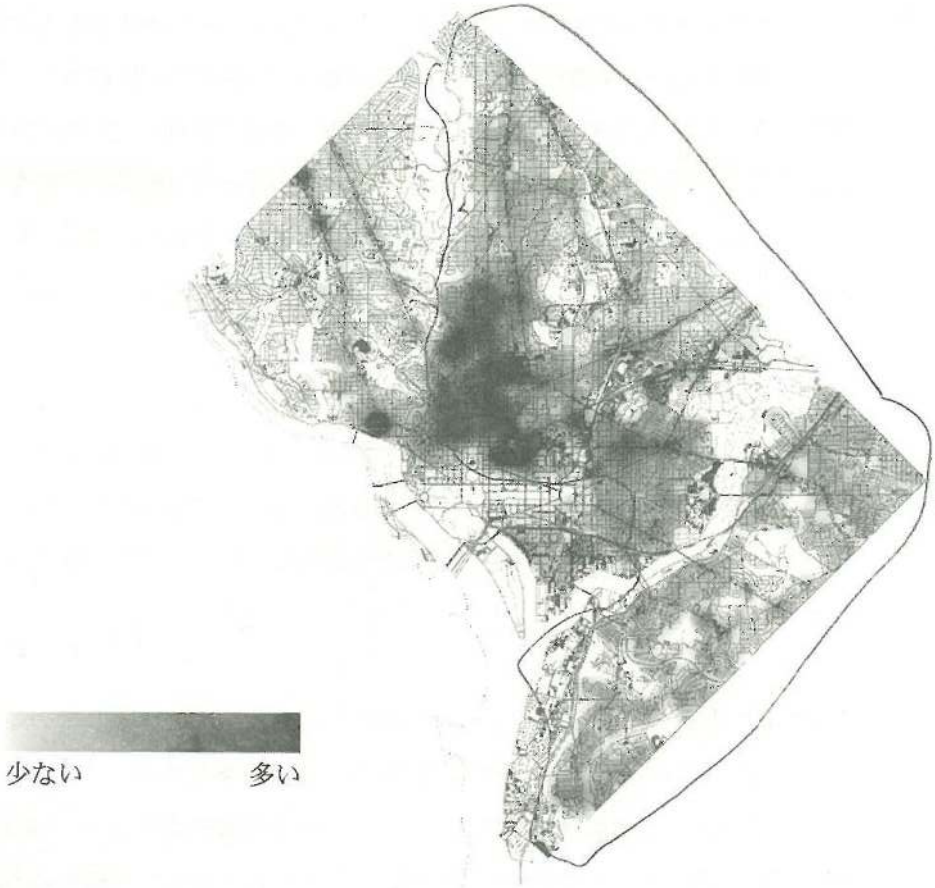


図Ⅲ—2　ワシントンD.C.における人種・エスニック集団毎の混住・住み分けの度合い(1980～2000年)

出所：The Urban Institute

問 2　図Ⅲ—3，図Ⅲ—4は，ワシントンD.C.の地図である。図Ⅲ—3は居住区の人口に黒人が占める割合，図Ⅲ—4は盗難の発生の空間的分布をそれぞれ示している。また表Ⅲ—1には人種・エスニック集団毎の所得水準を示してある。これらから，人種・エスニック集団による住み分け，犯罪，所得水準の3者にはどのような関係があると考えられるか。説明しなさい。解答にあたっては，図Ⅲ－1，図Ⅲ—2も参照してよい。(150字以内)

図Ⅲ—3　ワシントンD.C.における居住区毎の黒人居住者の占める割合(%)
出所：Radical Cartography



図Ⅲ—4　ワシントンD.C.における盗難の発生件数の地理的分布

出所：Radical Cartography

表Ⅲ—1　ワシントンD.C.における人種・エスニック集団毎の一人当たり年間所得の中央値(2009年)　単位：USドル

全人口	40,797
白　人	65,865
黒　人	23,447
アジア人	51,252
ヒスパニック	26,026

出所：City-Data.com

問 3　ワシントン D.C. 周辺では，近年ボリビアからの移民の集住が進んでいる。アメリカ合衆国への移民のうちボリビア人の占める割合はわずか 0.2 % に過ぎないが，そのおよそ 4 割がワシントン D.C. 周辺に居住している（2009 年時点）。ワシントン D.C. はボリビア人移民の移住先として圧倒的第一位である。このように一つの人種やエスニック集団に属する居住者が自ら進んで特定地域に集住することを選ぶのは何故か。ボリビア人移民による次の 3 つの証言を参考に，説明しなさい。（125 字以内）

「私の友人は，5 つ星ホテルの改修を仕事にしています。最初はアメリカ人が所有する同じ業種の会社に雇われていました。そこでこの業種について学び，出世していきました。今では自分で会社を所有していて，ボリビア人を雇っています。」

「私が車で仕事に向かう時，4，5 人のボリビア人が車に同乗しているのを見かけます。互いに助け合って仕事に向かい，務めを果たすのです。住居も同様です。2 つか 3 つの家族が同居しているアパートがよくあります。はじめはそうして助け合って，5 年か 10 年もすればそれぞれ自分の家を持つようになるのです。」

「こんな大きくて怪物みたいな国に来るのは非常に難しいことです。だから私たちは民族舞踊を継続するのです。言ってみれば文化的な隠れ家です。私たちはただ踊るのが好きで，音楽が好きなのです。ビジネスとは何も関係がありません。生活を守り，私が生まれた地であるボリビアと繋がっているための文化的な隠れ家なのです。踊っていると，自分に戻れるのです。」